

## 真心の印象

Impressions of integrity

RI会長 ハーブ・ブラウン

Herb Brown President, R.I.

ビジネスマンでロータリアンでもある私は、小さなオフィスから大工場に至る、あらゆる職場での高い倫理の大切さと価値をよく承知しています。したがって、職業奉仕月間である10月は、真心と、それがロータリアンの生活に占める本質的な位置について考えるのに、適切なときでしょう。

真心とは、公表した信念を実践することであり、自らの発言に誠実であることです。世間を見回すと、程度こそ違え、どこもスキャンダルや欺まんや腐敗で汚れており、もはや真心には価値が認められていないように思えます。これは危険な兆候です。

ロータリアンが誇りにできることは、ロータリーでは最初から、高い倫理基準が組織としての考え方の中心に据えられてきたことでした。事実、ロータリーの初代事務総長チェスリー R. ペリー氏は、真心をロータリークラブの会員となるための「資格」としました。また、ロータリアンの大会では繰り返し、倫理が討論のテーマとなりました。1912年とい

う早い時期に米国オレゴン州のポートランドで開かれた大会で——ロータリーの第2回大会でした——参加者たちは、ロータリークラブの会員であることを、自分の会社の株を売りだすときに利用するのは非倫理的な行為だと、宣言しました。

1932年にシカゴのロータリアン、ハーバート J. テイラー氏が考えだした「四つのテスト」は、誠実さと公正さと真心さを評価する権威のある尺度で、いまやロータリーの基本となっています。もっと最近では、1989年の規定審議会で「事業または専門職務に携わるロータリアンのための職業宣言」が採択されました。これは、高い倫理と職業奉仕を一体として地域社会に導入するためのチェックリストです。このチェックリストに示されているガイドラインから外れないようにしておられるロータリアンは、他の事業や専門職務の人たちの模範となりますし、手本となる前向きな役割モデルを懸命に探し求めている若い人たちへの模範ともなります。

## 真心の行動 慈愛の奉仕 平和に挺身

ロータリアンは真心と誠意と正直と奉仕の原則を体現していますので、世間はもっと多くのロータリアンを必要としています。したがって、クラブの会員を増やすことによって、私たちはロータリーそのものを強化し、世の中に役立つことをするロータリーの能力を大きくすることができます。これが、今年、私たちが会員増強に真剣に取り組んでいる理由です。世界中のロータリークラブが、1995-96年度に、8万5,000人の会員と949のクラブを正味で増加させると約束してくださったことに、私は深く感謝しています。ロータリアンは真心で約束を守る人たちですから、このことは必ず実現すると、私は思っております。

最後に、真心という言葉がもっているもう一つの意味、「完全な状態」について書いておきます。

今日私たちは世界中で、家族の完全な状態を脅かす難題に直面しています。この難題はいくつもの顔をもった怪物で、その顔には薬物濫用、未成年者の非行、識字率の問題、10代での妊娠、崩壊した家庭などがあります。

ジョージ・ブッシュ前米国大統領の言葉を借りますと、「われわれは家庭を強くしなければなりません。なぜならば、未来に関係をもっているのは家庭だからです」。

自らの家庭で私たちは、大切にしている価値観を守るため真心の行動を実践しなければなりません。家庭で、信頼を生み出す雰囲気をつくりあげ、高い道德の原則を教え、その模範を示すのを奨励しようではありませんか。私たちが世界の子供たちを大切にしているときは、世界の家庭を大切にしていることになります。家庭はあらゆる地域社会の基本的な単位ですから、私たちは、家庭を築くことで、地元の地域社会を築き、ひいては世界という大きな地域社会を築いているのです。

真心をもってすれば、ロータリアンは自らの仕事、ロータリークラブ、そして家庭で、価値観の強いシステムを支えることができるはずですし、また、そう努めなければなりません。

(RI指定記事)

## 職業奉仕—私の場合



『ロータリーの友』委員会  
顧問 進藤 和行（旭川）

ロータリーの<sup>※</sup>職業奉仕は、創立当時の互惠取引に端を発し、<sup>※</sup>やがて社会奉仕、<sup>※</sup>国際奉仕へ昇華し、今日では<sup>※</sup>四大奉仕の基盤をなす重要な部門であります。その具体的活動は、職業宣言に盛られているように多岐にわたっています。

私の場合、医業は一般にサービス業といわれ、日常の診療は患者へのいたわり、つまり奉仕の心が基本にあります。しかし単にそれだけでなく、日進月歩の医学を常に研さんし、少しでも診断力を高め、良質の治療を提供するよう心掛けねばなりません。それ自体も医師にとっては立派な職業奉仕でなかろうかと考えます。

ところで私が開業したころは、救急医療を中心とした総合病院をもつことが夢でした。が、ロータリーへ入会して老人施設を訪ね、あるいは『友』誌で数多くの高齢者奉仕活動を見ているうちに、次第に考えが変わりました。今までに思いもしなかった自分の“<sup>※</sup>老い”の姿が見えてきて、いかに“<sup>※</sup>すこやかに老いる”かを模索するようになったのです。

「ただ命を長らえるのでなく、楽しい充実した老後には全人的、統合的、効率的システムが必要で、それには医療と福祉と保健の3つをつなぎ、それと地域住民とが融和すれば理想郷が生まれるのではないか」と。

昭和54年に社会福祉法人を設立、用地と一部建築費を寄付し、まず孤独なお年寄りに“<sup>※</sup>軽費老人ホーム”を、次に隣に屋外スポーツ施設とリハビリテーション専門病院を建てました。お年

寄りは見違えるほど若返りましたが、15年経過すると平均年齢80歳を越え、将来の不安をつのらせます。そこで寝たきりのために“<sup>※</sup>特別養護老人ホーム”とデイ・ケア・サービス、ショート・ステイ・サービスを併設しました。さらに健診部門と屋内体育館を加えれば連携効果は相乗的に高まりましようが、さて、個人でどこまでやれますか、せいぜい頑張ってみようと思っています。

「<sup>※</sup>だれしもこの世を変えようとして入会したのではありません。大部分の人は仲間が広がる機会を求めて入会したのです。ロータリーの深い影響はゆっくりやってきました。……ロータリアンは初めから生まれるものでなく、かくしてつくられるものなんです。ロータリアンに変身していくゆったりした過程に大きな価値があります」、「<sup>※</sup>Rotary Wisdom」という本の中で、カドマン元R I 会長が言われました。

私は入会して人格が円満になったと、とても言える柄ではありません。しかし、クラブで大勢の異業種の友達が増え、未知の世界を経験しているうちに、今まで見えなかったものが自然に見えるようになり、カドマン氏が言われたように少しは他人のことを考えるようになったのでしょうか。

「<sup>※</sup>邂逅開眼」という言葉がありますが、私はロータリーと邂逅してよかったと、つくづく思っております。

第2500地区（北海道東部）PG

# 大震災と職業奉仕

## 第2680地区ロータリアンの活動

阪神・淡路大震災の被災者支援および復旧活動には、多くのロータリアンが、その専門知識や技術を生かし、また企業を挙げて取り組んでいます。

その様子は「ロータリーの友」でも紹介してきましたが、今回は被災地・第2680地区（兵庫県）のロータリアンとその企業の活動についてご紹介いたします。

### 神戸電鉄の復旧

神戸電鉄社長  
神戸西 一本松康雄

すさまじい地震の猛威。辛くも生命のあったわれわれは、寸断された交通路をしゃにむに突き抜けて現場に駆けつけた。神戸市の新開地にある本社ビルは、大きなクラックが入り、ガラスはことごとく破れ、書棚は倒れ、コンピューターも大破していた。直ちに本社移転を決断、神戸電鉄沿線谷上にある駅ビルに移転するよう手配した。

次に崩壊寸前のトンネルに向かう。真っ暗なトンネルの中をライトを頼りに歩く。余震は断続的に続いていた。ここで、生き埋めになっても本望だと思った。一刻も早い復旧を、トンネル、橋梁、駅…復旧方法の協議に心痛した。車両に損害のなかったことは幸いだった。大部分の路線は3日後に何とか運転再開にこぎつけたが、トンネルの復旧に慎重を要し、全線開通は5カ月後の6月22日だった。平素から社会奉仕を理念とする電鉄ではあるが、この間の現場従業員の活躍は筆舌に尽くし難い。

関係会社もことごとく被害を受けた。直営の兵庫ゴルフは、収入が皆無となった。このような中で、浴場を被災者に開放することを決断、水もガスも来ず困っていた被災地の人々に喜ばれた。また、ゴルフ場従業員を各駅に応援派遣するなど活用して、人員整理を免れた。

神鉄観光（交通社）は社屋の被害を免れたが、

旅行はすべてキャンセル、当然客足はパツパツで収入は途絶えた。そこで、電車不通区間の代替バス運行をすべて請け負わせ、その収入で人員整理を免れることができた。沿線の有名な有馬温泉も被害大だが、神鉄傍系のビューホテルは再開が早く、神戸有馬RCのロータリアンに喜ばれた。

6月22日の全線開通は、涙の開通だった。この間不通区間は代替バス運行でご迷惑をかけたが、おびただしい数の被災者、それを助けるボランティアの人々を輸送した。これらの人々は打ちひしがれてはいなかった。「生き抜かねば」と目は輝いていた。リュックサックを背負い、荷物を持ち、秩序正しく満員電車に乗っていた無数の人々の姿が今も目に浮かぶ。若い女性が、特にキラリとして美しかった。

職業分類 郊外電車

参考 神戸電鉄会長 神戸西RC  
北神急行社長 神戸北RC  
神鉄観光社長 神戸西RC  
有馬ビューホテル社長 神戸有馬RC



## 心の安らぎの手助け

山崎医院 院長  
神戸垂水 山崎 良麿

平成7年1月17日午前5時46分、異様な体感により暁の夢は破られた。ガタガタ、ミシミシという縦揺れ、ユッサユッサの横揺れが長時間（実際は20秒くらい）続く。「地震だ」震源地は近いと実感する。

懐中電灯をたよりに家の中を点検する。各部屋ともガラスと陶器の破片、その他により手のつけようがない。隣接する診療所も、カルテ、書類は飛び散り、棚の上の薬が部屋中にばらまかれている。とにかく明るくならなければ仕方ないと思い朝までもう一寝入りした（この間に数多くの余震があり皆恐怖におびえたとのことであるが、私は知らない。皆さんにあきれられたが……）。

ゴトゴトという音にはっとして目を覚ますともう8時半だ。びっくりして診療室に行ってみると、夢かと思うほどきれいに片付けられ、看護婦さんたちのほほ笑みがそこにあった。彼女らは、被害に遭った家を放置して、バスも通らない遠い道のりを歩いて早朝から出勤してくれたのである。かくして山崎医院9時からの診療開始が可能になった。そして、数多くの罹災された方、神戸中心部から垂水へ避難された方を治療することができた。

これらの患者さんで一番困ったことは、前の先生と同じ薬を欲しいという要望である。同じ薬効があっても、メーカーの異なりで色・形が違うとなかなか納得してもらえない。仕方なくその薬を購入しても前の先生の診療所が再開すればすぐ来なくなってしまう。従って、未使用の薬が山積みしてしまった。でも、これによって一刻であったが患者さんの心の安らぎの手助けができたと思えば満足である。

被害が少ない垂水区でも、400カ所の避難所に4,000の方が仮住まいを余儀なくされた。そし

て、区内医師会会員全員が交代で3カ月にわたり夜間巡回医療相談を実施し、また、多くの医師たちが個人的に職業奉仕に、ボランティアにと活躍された。

当院においても、震災後一日も遅刻せず休まず働いてくれた従業員に心からお礼を申し上げるとともに、これが本当の職業奉仕だなあ、と考えている最近である。

職業分類 神経科医

## 遺体の安置場所を提供

神戸村野工業高等学校 理事長  
神戸西 村野 利昭

私共の学校に長田警察署から遺体の安置所を場所を提供してほしいという依頼があったのは、地震発生から5時間少したった平成7年1月17日午前11時過ぎのことであった。長田区で40体くらいありそうとのこと。校舎の被害も軽微に見えたので、即座にOKをだした。2階部分が体育館、1階部分が柔道場・剣道場および生徒食堂になっている建物を用意する。

間もなく最初の遺体が運び込まれ、体育館に安置する。次々に運び込まれてくる遺体の数は、時間がたつにつれて増え、体育館のみでは収容しきれなくなり、柔道場も剣道場も安置所に当てる。事務室、守衛室の電話は、問い合わせでかかりっぱなしである。遺体の数はその後も増え続け、会議室、教室の3つにも安置する。ほかの教室は、入り口のシャッターが開かず使用不能になっていた。ピーク時にはテニスコートにテントを張って安置した。

遺体搬入のため校門を開くと、待ち構えていたかのように、近所の人たちが避難してこれ、食堂を開放することにする。

運動場はいち早く駆けつけてくれた自衛隊の幕营地となり、「災害復旧」のマークをつけたジープがひっきりなしに出入りする。

遺体を運んでくる救急車や一般の車と肉親の安否を気遣い探しに来る人々と避難の人々、自



衛隊のジープでごった返す。区役所からのボランティアの人々が徹夜で奉仕して下さる。学校の玄関前が棺桶工場と化し、ドライアイスの山が築かれ、骨壺が並び、すぐ横手に避難者の救援物資が山積みされている。各宗派の若いボランティア僧が読経の依頼にこたえて奔走し、通夜の線香の煙がたちこめる。最終的には678体の遺体をお預かりした。

水の出ない校舎に159人の方が避難され、遺体を見守られる人々、自衛隊の人々など、人があふれ、簡易トイレが東京から届くまで、その清掃に苦勞した。

今はその体育館も損傷のひどいことが判明し、解体撤去を余儀なくされ、更地となり建て直しの計画が終わったところである。

職業分類 工業教育

## 司法書士の立場から

飯尾司法書士事務所 所長  
小野 飯尾 繁

司法書士は、公正な職務を通して、国民の権利保全に努め、もって社会秩序の安定と進歩に寄与することを使命とするが、本年1月17日の阪神・淡路大震災に際し、最も被害の大きかった兵庫県司法書士会の対応について、同会の会報、総会資料により、紹介したいと思います。

兵庫県司法書士会の700人余の会員中、罹災都市法27条2の適用された市町に約半数が自宅、事務所を有し、会員2人の死亡のほか、自宅、

事務所の執務不能の会員が150人にのぼりました。本会の事務所も1週間以上も使用不能となり、役員個人の事務所を仮事務所として会員の安否調査が精いっぱいでした。徒歩で、自転車で、がれきの中を東へ西へ不眠不休の活動を続けた本部役員のご苦勞は、会員の私にも、身にしてみて分かりました。

会員のI氏は、2月6日には相談窓口用に5訂版の想定問題に対する回答集を編集、全会員に配布して被災者からの相談を受ける体制づくりに入っており、その資料収集は全国の青年司法書士会の協力とパソコン通信利用の情報交換により、資料が豊富になったと聞いております。

日本司法書士会連合会と近畿司法書士会連合会は早速に対策本部を設置して救援活動を全国に呼びかけ、各地の司法書士会から続々と救援の金品が送られてきました。単に司法書士のための消費にとどまらず、その寄付金をもとに本会に特別会計「阪神淡路大震災市民等救援基金」1億円を計上し、法律相談をはじめ救援活動を、被災者のため活発にしようと提案し、5月20日の定時総会で、全員の拍手で成立し発足しております。この基金は、将来の災害にも対応できる財団へ発展させるものと聞きました。

被災市民の不安解消のため、1月27日から要請のあった電話相談に係の会員を派遣して、ほかの士業の方々とともに相談にあたりましたが、不安な毎日を強いられている市民がいかにも多いかが分かり、最も相談の多い借地・借家問題も専門家を招いて市民講演会と相談会場も単独で開催し、相談する者、相談される者も共に勉強の機会になったと思っています。

司法書士法律相談統計(4月16日現在)によれば、面接・電話を合わせて延べ日数339日、延べ相談員数1,656人、延べ相談件数7,600件余となっており、もちろん県会員以外の応援分も含むと思いますが、災害によって知った人の心の温かさに感謝の誠を捧げ、拙文の終わりとします。

職業分類 司法書士

## 墓石の復旧作業

北川石工所 店主  
南淡 北川 充平

先の震災大被害の実情は、テレビ・新聞などにて周知の通りであるが、私たちに関係の石材構造物などの被害もまた甚大であり、神社、仏閣の鳥居、灯籠、仏像はもとより、一般墓石の倒壊甚だしく、その取り除きと復旧に淡路島内の石材業界は多忙を極めている。

震源にやや遠い南淡町も、全半壊家屋約80戸。私の家では陳列の一部と庭灯籠が倒れたが、幸い家屋、機械に被害はなかった。即刻連絡のあった島内各地を見舞い、被害の状況把握に努めたが、北淡の被害は悲惨であった。

また、従業員も、家庭、親戚など、それぞれ支障があったが協力を願い、震災の翌日、急を要する所から復旧作業を開始した。もちろん、当時施工中の工事も続行しながらである（幸運にも私の取引関係業者は被害地外であったので、材工ならびに人員の応援を得ることができた）。

一方、島外では長年じっこんにしていたいでいる神戸の慶雲寺（須磨区）から、本堂、庫

裡の被害も大きいが墓所の石碑が全壊した、とのご連絡を受けた。日ごろのご恩返しに直ちに神戸行きを考えたが、フェリーならびに神戸の道路規制でその機を得ず、2月に入ってようやく通行の見通しが立ち、2月10日、グレン車と軽トラック3台に必要機具と資材を積み、石工6人が分乗した。

午前5時家を出発、幸いフェリーも道路も順調で、8時慶雲寺に到着した。予想以上の惨状に驚いたが、直ちに作業開始、グレン、チエンブロック、人力など、3組に分かれ、全員懸命の奉仕により約100基に及ぶ大小の石碑を全部建て直した。破損したところは応急措置ながら一応開眼入魂でき得る程度に復旧し、午後6時、ご住職はじめ寺総代の方のお見送りを受け、帰途につき、道中無事10時に帰宅した。

誠に忙しい作業であったが、気持ちよい奉仕の思い出である。以来半年、淡路の墓碑は島内石材業者の協力でほとんど建て直され、お盆の先祖供養もできたことと思われる。

しかしながら、本格的な墓碑などの復旧は今後に残されている。

ご先祖も さぞ仰天の 地震かな

職業分類 石材工業



## 可能な限りの開店を

生活協同組合コープこうべ 組合長  
神戸東 木村 正人

わずか20秒の烈震が、6,000人を超える貴い命を奪った。コープこうべも人的、物的に大きな被害を受けた。本部ビルは倒壊し、11の事業所が全半壊。被害総額は500億円にもものぼる。

震災当日すぐさま設置した緊急対策本部から発した最初の指示は「可能な限りの開店」「開店が無理なら店頭での供給」であった。これは単に商品の供給といったレベルではなく、毛布をかぶりうつろな顔でさまよう組合員、市民のために「とにかくできる限りのことを」の必要に迫られてのことである。

「一人は万人のために、万人は一人のために」は生協の目的を一言で表現する言葉であるが、170万組合員のことを最優先に考え、地域社会に貢献していくことは、被災地にあるコープこうべとして当然の行動基準であった。

とはいえ、この責務遂行には多くの労苦を要した。電話、ファクスの分断は、200を超える事業所間の情報伝達を不可能にし、バイクや自転車がその伝令機能を補った。最も痛手となったのがコンピューターシステムの壊滅である。あらゆる業務の情報・データ処理を全面依存していただけに、ほとんどの事業所で困難を極めた。また、交通渋滞による物流機能の悪化も手伝って、日々変化する組合員のニーズに不十分な対応を余儀なくされたのが実情である。



行政との連携面で、コープこうべは神戸市や尼崎市と「緊急時における生活物資確保のための協定」を結んでいる。組合員が兵庫県世帯の6割を超えるコープこうべは「地域に開かれた生協」として、各自治体と緊密なコミュニケーションを図っていくことが極めて重要である。

今回の震災は、生活者の意識をも大きく変えた。豊かさは、モノを多く持つことだと思われてきた一面がある。ここに深い反省が加えられ「本当に必要なもの」が問い直されている。しかも、暮らしのあり方や生き方の価値観の変化も指摘されている。一方、今後の明るい希望の具体例としてクローズアップされたのがボランティアの台頭である。さまざまな局面で見られた「やさしさ」「思いやり」には目を見張るものがあった。

私どもは、こうした経緯のなか「創造的復興」を重点テーマに掲げている。単なる復旧ではなく、従来の発想を超えたものを築きあげようということで、基本的には3つの目標を持つ。一つは「扶け合い」のあふれる新しいまちづくり。第2は、価値観の変化に対応した新しいくらしづくりで、これらにどう貢献していけるか。そして、21世紀への新しい生協運動づくりをどう進めていくか、である。生協の社会的存在理由ともかかわる大きなテーマだけに、改めてこの実現への決意を新たにしているところである。

職業分類 生活協同組合

## CD版「ROTARY SONGS」

おかげさまで好評です

CD版「ROTARY SONGS」は、例会に、自宅練習用に、そして新会員へのプレゼントとして、広くご活用いただいております。

曲名 1. 君が代 2. それでこそロータリー  
3. 奉仕の理想 4. 手に手をつないで  
5. 我等の生業 6. 四つのテスト

7. われら日本ロータリアンの歌

8. BIRTHDAY SONG 9. 日も風も星も

10. SMILE-SING A SONG

11. R-O-T-A-R-Y

12. SING EVERYONE SING

(各曲、合唱とオーケストラの2種類が入っています)

頒布価格 1枚 3,000円(消費税・送料別)  
クラブ事務局を通じて「友」事務所までお申し込みください。